

第1回 高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議
「高齢運転者交通事故防止対策に関する調査研究」分科会
議事概要

1. 開催日時等

- ・開催日時：令和元年5月27日（月）14：00～16：00
- ・開催場所：合同庁舎2号館19階 警察庁第2会議室
- ・有識者委員
早稲田大学名誉教授 石田敏郎（座長）
大阪大学教授（公益社団法人日本老年精神医学会理事長） 池田学【欠席】
モータージャーナリスト 岩貞るみこ
たじみ岩瀬眼科院長（名古屋大学未来社会創造機構客員教授） 岩瀬愛子
東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 鎌田実
武蔵境自動車教習所副管理者 河内勝良
お多福もの忘れクリニック院長 本間昭
全日本指定自動車教習所協会連合会専務理事 横山雅之
警察庁交通局交通企画課長
警察庁交通局運転免許課長
警察庁交通局運転免許課高齢運転者等支援室長
警察庁交通企画課理事官

2. 議事進行

2.1. 開会

- ※ 事務局より開会を宣言。
- ※ 事務局より座長候補として石田委員を推薦し、委員からの承認を得た。

2.2. 議事

2.2.1. 事務局説明

実車走行実験の実施をはじめとする調査研究事項等について事務局より説明。

2.2.2. 自由討議

各委員からの主な意見等については、次のとおり。

【認知機能検査について】

- ・ 現行の認知機能検査では時間がかかりすぎるのであれば、検査をタブレットで行うなど効率的に実施する手段を考えるべきではないか。また、例えば、受検者の声を AI によって分析することで、認知機能をスクリーニングするツールも開発されており、将来的には、これらの活用も考えられる。
- ・ 75 歳以上の高齢者全員に認知機能検査を実施する現行制度は、日本独自の誇れる制度である。様々なツールを使用して、認知機能検査の効率化ができればよいと考えている。
- ・ ある年齢からは、免許証を更新する 3 年に 1 度ではなく、例えば毎年行うなど、認知機能検査の頻度を上げることはできないだろうか。

【教習所の負担について】

- ・ 認知機能検査や高齢者講習は、日本語が書けない外国の者や耳の聞こえない者も受けており、時間内に終えるのは難しいというのが現状である。教習所からは、認知機能検査や高齢者講習を簡素化すべきだという声が上がっている。
- ・ 教習所では、認知機能検査の結果へのクレームに対応したり、予約を忘れないよう前日に連絡したりといった労力がかかる。こうした手間ひまに見合った適切な料金設定になっていないと感じる。

【実車試験等について】

- ・ 運転リスクが高い者をスクリーニングする機能まで求めるのであれば、認知機能検査と実車を併せて行うことが重要である。
- ・ 第1分類と判定された者から、普通に運転できているのに医師の診断を受けなければならないのか、という声を聞くことも多い。認知機能検査と実車検査を併せて実施することで、そのような者の納得感は得られやすくなるのではないか。
- ・ 高齢者の運転能力を確認する場合、確認しなければならない運転能力はどの程度のレベルを念頭に議論するのか。他に車がない環境で道路に沿って走ることができる最低限の能力だけを見れば良いのか、あるいは少し複雑な環境で周囲に目を配りながら運転できるという所まで確認しなければならないのか、というところも議論しなければならない。
- ・ 視野検査では、現在行われている動体視力や夜間視力も大事であるが、有効視野の測定が有効であると考え。ただ、有効視野の測定は時間がかかり、心理状態などによっても結果が変わり得る。今回のデータ収集において、前年度までの研究で水平視野計では不十分である事がわかっているのに、なぜ水平視野計を採用しているのか。また、偽陰性が多く生じる事が予測できる水平視野計と両眼クロックチャートで何を解析しようというのか。
- ・ 現状のサポカーを前提とした制度では、事故防止効果は極めて限定的であり、ほとんど意味がないと感じている。

2.3. 閉会

(以上)